

氏名(本籍)	西田 秀明(福岡県)
学位の種類	博士(鍼灸学)
学位記番号	鍼博甲第75号
学位授与の日付	平成30年 3月 16日
学位授与の要件	大学院学則第34条第1項および学位規程第5条第1項該当
学位論文題目	天枢穴または合谷穴への鍼施術時における大腸運動の影響 －腸蠕動と自律神経機能を指標として－
論文審査委員	(主査) 和辻 直 (副査) 糸井 啓純 (副査) 角谷 英治

論文内容の要旨

【目的】

鍼灸診療では医学古典に記載されているように、消化器症状に対する治療が行われている。本研究では、鍼灸臨床で用いられている大腸の募穴である天枢穴(腹部経穴)または大腸経の原穴である合谷穴(上肢経穴)に鍼を施術した際に、大腸運動がどのように変化するかを調査した。

【方法】

対象は本研究に同意を得た器質的な消化器疾患、循環器疾患のない18歳以上の男性とした。手順は10分間の安静仰臥位とし、10分後に大腸運動をみるために腸電図と腸音、心拍を鍼施術前後20分間、計40分間測定した。被験者は、鍼を施術する天枢穴施術群、合谷穴施術群、鍼施術を行わない施術なし群の3群のいずれかに振り分けた。鍼施術は左側のみ行い、置鍼15分間とした。鍼施術による大腸運動の変化と自律神経機能への影響を調査した。

【結果】

左天枢施術群では腸電図の振幅、腸音、心拍は有意に減少した。左合谷施術群では、腸音は有意に増加し心拍は有意に減少したが、腸電図の振幅に顕著な変化はなかった。施術なし群では腸電図や腸音に変化はなかった。

【考察/結語】

左天枢施術群は、脊髄反射により交感神経優位となって大腸運動が抑制されることが判り、大腸の募穴として大腸運動に関与することが考えられた。また、左合谷施術群は上脊髄性反射により副交感神経優位となって運動が促進され、左天枢施術群と異なった影響を及ぼし、大腸経の原穴として大腸運動に関与することが示唆された。

論文審査の結果の要旨

本論文は、鍼灸臨床で用いられている消化器症状に対して用いられている左天枢穴（腹部経穴）と左合谷穴（上肢経穴）を用いて、単一経穴への鍼施術が大腸運動にどの影響を及ぼすかを、腸蠕動と自立神経機能を指標として研究したものである。

対象は本研究に同意を得た男性 31 例を用い、鍼施術する天枢穴施術群、合谷穴施術群、鍼施術しない群を無作為に振り分けた。対象を安静仰臥位で 10 分間、その後に大腸運動をみるために腸電図と腸音、心拍を鍼施術前後 20 分間、計 40 分間測定した。鍼施術は左側のみで置鍼 15 分間とした。なお便通状態及び健康状態を把握するために、4 種の質問票（便通質問用紙、ブリストルスケール、東洋医学健康調査票、SF-8）を行った。

その結果、左天枢施術群では腸電図の振幅、腸音、心拍は有意に減少した。左合谷施術群では、腸音は有意に増加し心拍は有意に減少したが、腸電図の振幅に顕著な変化はなかった。施術なし群では腸電図や腸音に変化はなかった。なお便通質問用紙、ブリストルスケール、東洋医学健康調査票では 3 群ともに正常範囲内であり、SF-8 は一部に正常よりも僅かに低い値があったが、3 群には差がなかった。

左天枢施術群は、脊髄反射により交感神経優位となって大腸運動が抑制されることが判り、大腸の募穴として大腸運動に関与することが考えられた。また、左合谷施術群は上脊髄性反射により副交感神経優位となって運動が促進され、左天枢施術群と異なった影響を及ぼし、大腸経の原穴として大腸運動に関与することが示唆された。

これまで胃腸を対象とした鍼灸研究では、鍼の雀啄術や回旋術を繰り返した置鍼、2 穴以上の複数の経穴への鍼刺激を行った場合に胃電図や腸音の減少が認められている。しかし単一経穴への鍼施術の変化は確認されておらず、刺激量の少ない置鍼のみの影響も確認されていない。また鍼施術におけるヒト大腸運動の影響を計測した研究も見当たらない。本論文では、腹部経穴と上肢経穴における単一経穴に置鍼のみの弱い鍼刺激で、大腸運動の影響に違いを認めたことは意義がある。

このことから、本論文は鍼施術における大腸運動の影響を検証した新規性のある論文であり、鍼灸学の発展に寄与する研究と考えられる。よって本論文は、本学大学院博士（鍼灸学）の学位に値するものと認める。

（主論文公表誌）

日本伝統鍼灸学会雑誌 第 44 巻 3 号（第 91 号）